「木の集合と色彩」について

当初考えていたことは、いろいろな木を使い、画面の中に斜め上から見下ろした風景のように見える空間を作ること。また、山や丘、森などを一つの塊として表現してみたら面白そうだなということ。

普段の生活の中で目にしたイメージから着想したアイデアだが、しばらく続けていたスケッチ的な表現から変化を求める気持ちが反映されていたのかも知れない。１点１点を丁寧に描画しつつも、あまり真面目になり過ぎずに絵を作ろうと思っている。

案内状に使用した作品については、様々な種類の木で森のような、こんもりとした塊を作ろうと考えた。描き方や描画材を変えた木をパッチワーク状に組み合わせ構成した塊の表現に、今後の展開の可能性を感じている。

南九州に移住し３年が経つ。住まいの周辺には山や田畑が広がっていて、身近にこの作品のヒントになる風景が点在している。あまり意識して見ていなかった風景だが、最近は風景を見ることが楽しくて仕方がない。

表題の「色彩」に対応する作品として、MDF のパネルやボードにリトグラフインクを塗り重ねた作品を作っている。今回は昔の作品を作り直したものと、全くの新作の２種類を並行して制作中である。この２種類の大きな違いは下地の作り方だ。以前はツルツルの表面にこだわっていたため、油性の下地を作っていたが、新作は水性の下地に変えた。水性の方は、油分を吸い込みマットな発色になる。その柔らかい色の調子を新鮮に感じながら制作している。

モノトーンの作品ばかりを作っていると、時々無性に色が使いたくなる。自分の中でそうしてバランスを取っているようだ。

2025 年 2 月

木下恵介